

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 花\*花

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200327		
法人名	JAライフサポート		
事業所名	グループホーム 花*花		
所在地	〒028-2102 岩手県宮古市墓目第三地割15番1		
自己評価作成日	令和3年9月1日	評価結果市町村受理日	令和3年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年も花壇と畑に力を入れました。花壇については去年の配置を写真で残しており、花の色合いや背丈を想像しながら花壇を完成させました。花が終わった場合の花柄摘みも、どのようにすれば来年たくさん花を咲かせるかを利用者に調べていただいております。ご近所の方が、「とても綺麗ですね、見せてください」とおいでになることもあり、利用者も職員にとっても励みになっております。畑では12種類ほどの野菜を植え、天候をみながら草取りや、つるの誘引、収穫などを行っています。畑でとれた野菜を切っただき、調理、提供する際には利用者にお伝えしています。「固い、ちょっと探るのが早かったな」「甘い、美味しい」など、たくさん意見が聞かれます。思うように外出が出来ない日々が続いていますが、バスからは降りずに春にはお花見、夏には海にドライブへ出掛けました。施設内では、利用者の出来ていることと、もっと出来るのではないかと抽出しプランに組み込んでおります。ちょっとした動作も、介助によって出来ることを奪ってしまわないように職員間で気を付けております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時に、職員の参加のもと話し合いでつくられた理念であり、利用者・家族・職員を大家族と位置付けている。職員が理念達成に向けて各自の具体的な行動目標を決めて取り組んでいて、毎月自己評価を行い、管理者とともども振り返りを行っている。この意識は、運営推進会議の訪問看護師の提案による「ユマニチュード」の実践として継続しており、日々の支援サービスの向上に繋がっている。医療機関受診は、コロナ禍のため利用者全員とも職員が同行しているほか、電話診療も行っている。「受診ノート」で家族や病院との受診情報の共有を図っている。開所後、看取りは2回、職員も全員経験しており、医師、訪問看護師と相談しながら、看取りの是非を主治医の判断のもと行っている。食事は栄養士が利用者の好みを聞き、楽しく食べる工夫をし、花\*花ごはんとしており、グループホームの広報誌で毎月紹介し家族への安心感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花\*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が個々に理念を達成するための具体的な取り組み内容と、個人目標を決め、毎月自己評価をし振り返る機会を設けております。理念は、玄関と食堂に掲示しております。	理念に即した具体的な行動目標を職員各自が設定して取り組んでいる。毎月、自分の取り組み項目を振り返りながら確認し、明日に繋げている。開設4年目で、これからの理念について、職員全体で意見を出し合い花*花の新しい理念の作成に取り組もうとしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の方が花壇を眺めにいらしたり、野菜のおすそ分けをいただいたりとの交流があります。日光浴中に、声を掛けていただくこともあります。	事業所名の「花*花」ならではに、近所の方が足を止めてきれいに咲いたねと花壇の花を愛でてくれ、一緒に楽しんでいる。コロナ禍のため町内会の廃品回収、小学校の太鼓演奏、中学校の清掃活動などで交流しているが、以前は、近所の人を招待してバーベキューも行っていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェ等の地域との行事は開催することが出来ていません。新里地区以外の、地域ケア会議にお誘いいただき、参加しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、訪問看護師、行政、地域包括支援センター、駐在所員、利用者家族を委員としています。主に、利用者の生活状況や事故・ヒヤリハットなどについて報告をしております。	2か月に1回、事業所を会場に実施している。新里駐在所からもゲスト参加してもらっている。ヒヤリハットの報告では委員の方から「気の抜けない介護で大変ですね」との声掛けがあったり、訪問看護師の委員から提案のあった「ユマニチュード」の実践により、介護サービスの向上に繋がっている。	コロナ禍で家族の参加が難しい状況にあることから、利用者代表を委員に入れ、率直な意見を聴くことも大切であり、検討を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者も参加され、意見やアドバイスをいただいております。大雨警報発令前後には、メールや電話で状況確認の連絡をいただいております。	介護保険課には、管理者が直接赴き、生保関係、成年後見等不明な点は相談している。普段の関係性が良好であり、大雨警報発令時にも早い時期に情報を伝えてもらっている。「認知症カフェ」はコロナ禍で中止しているが、収束後は再開したいとしている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 花\*花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止適正化委員会を設置しております。職員間では、内部会議の中でスピーチロックを再確認、意識するようしております。外が気になるような行動がある際には止めることはせず、そのまま一緒に外を散歩するなどし納得して中に戻って来れるように支援しております。	身体拘束に関する指針を定め、身体拘束廃止適正化委員会を2か月に1回開催している。身体拘束の事例はないが運営推進会議では対応策について報告している。スピーチロックについては、気になる事例を取り上げ、職員間で確認しあっている。玄関等の施錠は夜間の防犯上、21時から翌朝6時まで施錠している。マットセンサーは使用していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての内部会議を行い、定義、実態、対策等を学ぶ機会を設けております。職員のストレス等も吐き出せる場にしたいと思っております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方がおり、月に1度の面会時には職員も後見人さんと顔を合わせています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には説明を行い、家族や利用者には不安が残らないように心掛けております。不安な事がある場合には、相談していただけるように話をしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から食事内容が知りたいとの要望があり、広報誌「花*花ごはん」にて紹介しております。面会時には必ず顔を合わせ、本人の様子を報告し、家族の意向等を聞くようにしております。半年に1程度、職員手書きのお手紙で報告させていただいております。	広報誌に「花*花ごはん」を掲載し家族に送っており、家族から「安心した」との電話をいただいている。家族アンケートに応じて良い話をしてくれるほか、行事の食事は、本人には広告を見せて、また家族からも食べたいと希望する内容を聞き取り、反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	内部会議を毎月開催し、職員の意見から業務内容を見直しております。	朝礼、定例会議などで職員の意見や提言を個人の事情も含めて聞くようにしている。職員の意欲や提案を実践してみることを大切に、職員会議では、介護経験の長短に関わらず意見を出してもらっている。	

事業所名 : グループホーム 花\*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望は可能な限り受け入れております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部会議の中で、職員の介護勤務実績年数に関わらず介護の基本に戻るような内容の研修をすることもあります。訪問看護師より、薬剤についての研修を受ける予定になっております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア個別会議等に参加、情報交換をし職員間で共有しております。認知症実践者研修に1名参加しております。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と家族に面会しグループホームの環境等について説明しております。職員間で情報を共有しながら、安心できるような場所や雰囲気を提供できるよう工夫しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後の様子を、こちらから電話で報告しております。慣れるまでの間、家族に電話で対応していただくこともある旨を了承していただいております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの段階で、困りごとを抽出するようにしております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	言葉遣いに注意しながら、息子や娘、時には孫になったりと、利用者がその時を楽しめるような雰囲気を作るように心掛けております。		



令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花\*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	プラン説明の際などには、家族にご協力いただきたい内容をしっかりと説明し、職員と家族が共にあることを理解していただいております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援に困難を感じております。	自分が世話になった人よりも、世話をした人への思いが強く、利用者の希望に沿って、関わりの場所や建物など思いの深いところに赴くこともある。地元の子もたちということもあり、小・中学生の訪問を楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	すぐに職員が間に入ることは控え、利用者同士がどのように関わり合えるのかを見守ることもあります。服の乱れを直してあげたり、口元を拭いてあげていたりする様子がみられます。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り後に契約が終了した親族の方がお寄りになることがあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話を大切にしております。受け持ち担当制を敷き、一人ひとりの個別ケアを重視しております。	入居者の多くは自分の思いを話せる状況にある。開設して4年間、職員の異動が無く、入居者ごとの受け持ち担当を決め、それぞれの生活の様子や体調を記録し、職員間で共有している。共有した情報は、誕生日に食べたいものやビール提供の情報源にもなっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方を、ご本人やご家族に確認し、それぞれに合ったペースで過ごしていただけるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	対応した職員や気づいた職員が必ず記録しております。確認した職員は、確認印を押し、もれがないように注意しております。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 花\*花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち担当制にしたことで、情報収集やモニタリングが行いやすくなりました。毎月カンファレンスを行い、当日欠席の職員には、事前に意見を聞いております。	ケアマネを兼ねる管理者が介護計画を作成している。入居時の本人、家族からの聞き取りから始まり、課題整理総括表による3ヵ月毎のモニタリングを経て、6ヵ月単位の長期目標を立てている。計画はパソコンで一括管理され、全職員が確認している。本人のやれること、できることを職員が見つげ出し、利用者の生活に取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が共有できるよう、小さな変化でも記録することとし、見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス感染症の流行もあり、通院介助が難しいとの家族の要望に答えております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の床屋に来ていただいております。月に1回、移動図書館にも来ていただき、好きな本を借りております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8名の方が入居前からのかかりつけ医を受診しております。可能な限り家族対応としておりましたが、コロナウィルス蔓延によりこちらでの対応となっております。病院によっては、電話診療を行っております。	8名の利用者が入居前のかかりつけ医を継続受診している。受診は家族同行を基本としていたが、コロナ禍で全員、職員が同行している。家族同行時「受診ノート」を持参して通院し、病院で看護師から記入してもらっている。電話診療での投薬は処方箋により職員が受け取りに行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師より、訪問日以外でも緊急時は連絡をしてほしいと話していただけるため、安心しております。体調の変化などをシートに書き留めておき、訪問日に報告、相談しております。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 花\*花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の医師の説明を家族と一緒に聞き、お互い理解したうえで進めております。入院中は、医療機関へ連絡をとり様子を伺いながら、退院の目途等の相談をしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに関しての説明をしております。都度、家族の気持ちは変化していくため、体調不良時などタイミングをみながら意向の確認をしております。	重度化した場合の方針を入居時に家族に説明し、同意を得ている。重度化等状況の変化に応じ、家族の意向を聞きながら、特別養護老人ホームへの住み替え、医療機関への入院、看取りなど、医師、訪問看護師と相談しながら、家族に寄り添って対応している。看取りは開設後2件の経験があり、医師、訪問看護師の指導の下、職員全員が経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応を、都度訪問看護師より受けております。消防署からAED講習会も受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員指示のもと、発電機の使い方と注意点を学んでおります。火災想定訓練と水害時の訓練を年2回行っております。災害に備え、2日間の飲料水、食料、備品等を備蓄しております。第一避難場所はコミュニティセンターになっていますが、状況を見て対応していきます。	年に2回の避難訓練を行なっている。2月は消防署の指導のもと、発電機の取り扱い訓練なども行った。11月には夜間想定や火災通報訓練を予定している。隣接の方からは避難時の見守りの協力を得ている。ハザートマップでは閉伊川の浸水区域に該当し、コミュニティセンターが避難所に指定されている。法人内施設の「ひきめの森」分と合わせ、4日分の食料を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	しっかりと名前を呼ぶことを大切にしております。居室への入室は本人に確認してから行っております。話の内容によっては居室へ移動したり、1人になったタイミングでするようにしております。	名前の呼び方は、苗字を希望する等、本人の了解を得て統一するようにしている。居室への入室時、トイレの誘導時の声掛け、利用者への尊厳、トラウマ的な言葉等、本人の意向・心情に配慮している。広報誌への写真掲載も本人家族から同意を得ている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 花\*花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の提供は、本人の希望を聞きながらできる範囲で対応しております。衣服などはなるべく自分で選んでいただき、季節も感じていただけるよう声掛けも工夫しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	花壇や畑が気になるようであれば一緒に外へ出て、眺めております。休みたい方へは、居室にてゆっくり過ごしていただき、時間をみながら声を掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節を理解できるような声掛けをしながら、自ら衣服を選んでいただいております。通院時等には、今着ている服で良いかを本人に聞くと、半数の方が着替えると答えております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスのとれた献立を、栄養士が作っております。利用者には、野菜切りや盛り付け、食器洗い、食器拭きなどを行っていただいております。裏の畑でとれた野菜を食すのが楽しみです。	栄養士の献立で楽しい食事を心がけている。裏の畑の野菜、ご近所からの山菜の差し入れなどで、三食とも事業所内で調理しており、昼食は職員と一緒にいただいている。花壇を見ながらの出前弁当、キッチンカーによるラーメンなども取り入れ、好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録、共有し確保に努めております。水分摂取の進みが思わしくない時は、お茶以外の好みの物を聞き出し、可能な範囲で対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケアすることを忘れて、理解できない方へは口腔ケアの声掛けを行っております。口腔ケアの理解が出来ない方へは、動作のきっかけを作っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	綿パンツのみ使用の方が1名、リハビリパンツ使用の方が8名、オムツ使用の方が1名となっております。排泄記録を確認しながら、それぞれの排泄パターンによって変えております。	介護計画に従って、自立歩行でトイレ使用を継続できるよう支援している。10人のうち6人はトイレに自分で行っている。夜間のパッド使用は4人、ポータブルトイレ使用は3人である。	



令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 花\*花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、家族と相談し乳酸飲料(ミルミル)を購入し、毎朝飲まれております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	通院などの希望に応じた、入浴日変更に対応しております。入浴に対して拒否がある場合には、日を改めております。	入浴は週2回、通院日や本人の希望に応じて変更している。一般浴槽のほかに機械浴槽があり、立ち上がり困難な1人が使用している。訪問看護師の指導によりシャワー浴としている利用者は2人となっている。クリーム塗布等、水虫対策にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お好きな時間に眠ることが出来るよう努めております。皆さんと同じ空間で長時間過ごすことにストレスを感じる方へは、無理せず居室にて過ごせるよう声を掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的等が分かるように、薬情報をすぐに確認できるようにしております。薬が変更になった場合は、訪問看護師への報告、ノートへの記録で情報を共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に働くことに生きがいを感じている方には、畑の草取り、収穫、建物内のゴミ集め等をしていただいております。疲れたと言いつつも、働いたことに満足され「今日も頑張ったー」と笑顔で過ごされております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	晴れた日には日光浴をし、外で体操を行ったり歌を歌っています。コロナウイルス蔓延のため、戸外へ出掛けることはせずに、週に1度喫茶を開いております。晴れた日には、外に喫茶店を作り懐かしいメロンソーダを楽しみました。他日には、団子が食べたいと希望が聞かれ、たてたお茶と一緒にいただきました。	外で「体操と歌」を、庭で「日光浴」を、天気の良い午前中に外で喫茶店を開き「メロンソーダ」を、また「お茶と団子」を食べるなど、日々楽しむ場を設けている。花壇のレイアウト作りなど、詳しい利用者が計画して楽しみとしている。バスの中からはあるが、お花見や海への「ドライブ」を行い、コロナ禍の中、季節の変化を楽しむ機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度の現金を管理されている方もおり、ヤクルトさんや床屋へ自ら支払いされております。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 花\*花

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら希望され、家族へ電話をすることがあります。お知り合いから絵手紙が届く方もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間やトイレに臭いがこもらないよう、換気やオゾン発生器を使用しております。昼食後など、ソファでゆっくり休むような時間には真上の電気を消したり、湿気があり不快な日は除湿器を使用し、快適に過ごせるよう配慮しております。季節に合った歌を掲示したり、草花を飾り、季節を感じていただけるよう努めております。	明るく開放感のあるホールは、朝食後、モップ掛け、テーブル拭き、ごみ拾い、手すり消毒など利用者が職員と一緒に出来ることを手伝っている。無病息災の掛け軸、アマビエの貼り絵など利用者と職員が作った作品を飾っている。一日の中でホールで過ごす時間が多く、花壇の名札を書いたり、チューリップの名称を調べたり、畑作業をしつつ季節感を感じ取りながら楽しんでいる。共有スペースにはイスや植物を配置し、心の休まるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれお好きな場所で過ごしていただいております。共有空間の中でもソファなど、お好きな場所に座っていただき自由に過ごせるよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望に沿って自宅で使用されていた家具を持参していただいております。転落の危険がある方は、家族と相談の上、畳の部屋に変えております。自宅でも畳を使用されていたとのことで、落ち着いて過ごされております。	居室には、介護ベッド、タンスが備え付けられ、暖房は床暖房になっている。思い出の品を持ち込んで、住み心地のよい環境にしている。家族の写真や誕生日に職員から贈られた寄せ書きも飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の暗くなってきたねー、の声掛けに利用者自らが居室のカーテンを閉めに行くことを待っております。洗濯物を取り込む際も、職員が早いかなーなどとあえて利用者に相談しながら、返事を待つように対応しております。		